

小瀧佳津子

辻棲はみ仏の掌に座禅草
 麦こがし訛ふとでて嘖きあへり
 夏雲や値踏みされゐる当歳馬
 野に遊ぶたましひといふ大荷物
 黒牡丹百の熱視に焦げそめし
 金輪際樹皮となりきる松毛虫

発想が実に独創的で、鑑賞していて実に興味深く、新しいインスピレーションを得られそうな作品。感性豊かに五七五のリズムで言葉を奏で、自身の価値観や美意識を俳句にしている。

大久保賀永子

大久保賀永子 四季をうたう

散る花も一色添えてちらし
 くちなしの匂い増したる薄月夜
 風鈴や心澄めれば澄みし音
 沙汰もなく消えし人あり落葉風
 ふるさとの煮しめの濃さや罌雲
 人の世も二度咲かせたし冬桜

四季折々の情緒を独自の着眼点で捉えている。ハツとするような感動も、じわりと染み入るような感動も、氏の感性で包容力に富んだ大らかで、慎み深い独自の俳句に仕上がっている。



石原美和子

久能山寒桜も海もかがやけり
 尾花ゆれ蝶もつれつつ又はなれ
 コスモスの迷路出づれば高麗の山
 リスポンのフアドの哀歌や春の月
 菅生沼ふれあい橋のアキアカネ
 竹生島瞬きに消ゆ冬の虹

旅先での思い出を句にした作品には、当時の瑞々しい感動が今なお生きています。異国の文化や風景に触れ、大きな刺激を受けた氏の喜びが句の味わいをより深めています。(東京)

田口欣也

われ自身理由判らぬ不潔感
 三十分も手を洗ひあき

病にて死ぬことよりもつらき時
 幸せのみをじつくり思ふ
 妹とわれをこの世に生みし母
 有難くして衰弱口惜し
 人間に生まれて来しは宝くじ
 一等賞より稀と母笑む

様々な悩みを抱え、苦しんでいる人にとって大きな力となるであろう作品。自身と静かに向き合い、様々な感じ、深く考え、言葉を紡ぎ出す氏が見えるよう。時代へのメッセージを感じます。

御山直子

遠く望むほの青白きは杏なり

桃照る中にしづみて咲けり

袖織る手元みつむるに古き世の

をみなを哀しみ重ねて思ふ

山崎千鶴子

春夕焼にんじん色の村通る
 地吹雪の放り上げたる白日輪
 岬バス怒濤と花野振り分けに
 除雪車の渾身もまた雪まみれ
 寒雲の日表を航く栄の旅
 鶴翔ちて所在明かせる雪原野

自分だけの表現を求め、日々探究心を持って作句に励んでいるのだらう。独特の華を持った句といえる。内容が濃く、言葉に勢いがあり、情感溢れる世界は、鑑賞していて実に気持ち良い。

石田克子

マロニエのこぼす日涼し懸果翔け

歳月やお変り在さずお雛様
 アーモンド咲くや神殿丘に立ち
 北海はけふ真つ平虹遠く
 姿よき城よと立てば落葉降る
 騎馬像の盾や剣や雷兆す

国内外で味わった感動が今なお生き続けている。フレッシュな俳句。☆第一句集「能衣裳」を読者の方五名様にプレゼント。ご希望の方は石田氏の作品への感想とともに応募下さい。

石黒京子

スリランカを訪ひたる思ひ出語り合ふ

届きし会報をなつかしみ読み

若きより曲がりし腰の杖として

自転車押して畑に通ひき